

ひと あい えどがわ

No.15

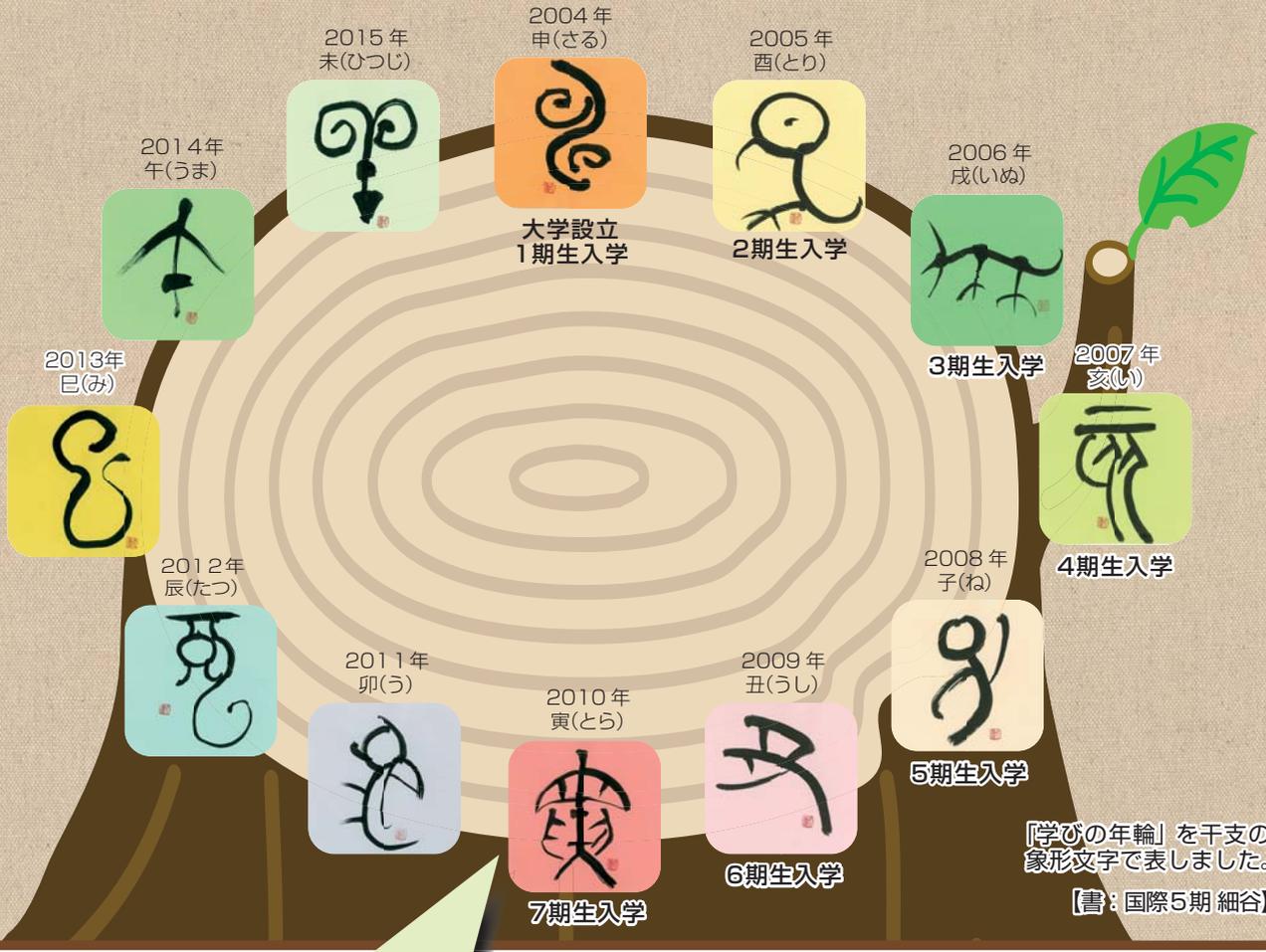
EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

学びの年輪

～あなたとつながる江戸川総合人生大学～

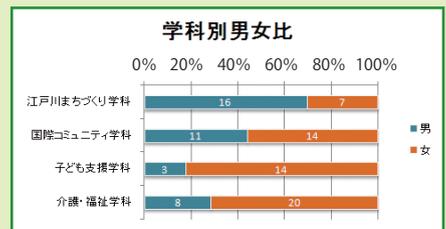
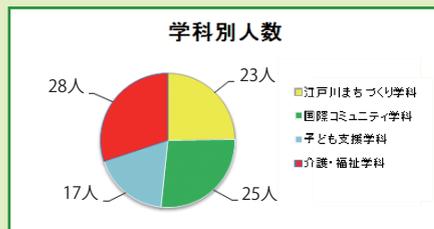
江戸川総合人生大学は2004年申（さる）年の10月に誕生し、今年で7年目を迎えました。これまで381名が卒業し、いろいろな地域で活躍しています。これからも多くの卒業生が生まれ、よりよいまちづくりを進めていきます。



新しい仲間が増えました！ <<7期生プロフィール>>

10月6日、第7期生93名の方々が入学されました。おめでとうございます！
新入生のプロフィールは、男女別では男性38名、女性55名、平均年齢は60.3歳です。2年間、共に学び、実りある学生生活を送りましょう。

区域	集計
葛西	30
区民課	10
鹿骨	13
小岩	12
小松川	12
東部	16
総計	93



新しい科目を設置しました！ <<授業紹介>>

1年次に取得する共通基礎科目に『みんなで創る安全・安心』を設置しました。私たちが住む江戸川区の現状や課題について、防犯・防災の視点から学ぶ科目です。明治大学教授山本俊哉先生や江戸川区土木部の方などを講師に迎え、安全で安心なまちづくりを創造します。



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
(* 学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

”学びの実”—新たな出会いに向かって

2年間の学びを終えた
5期生がレポートします

江戸川まちづくり学科 ~江戸川総合人生大学での2年間をふりかえって~

私が人生大学に入った動機は、「たくさん人の知り合いが出来たら心強いな」という、とても安易なものでした。

「江戸川まちづくり学科」を選択したことで、生まれ育った江戸川区について、知らないことが沢山あったことに気付かされました。また、色々な活動をされている人がたくさんいて、皆さん楽しみながらも周りの人達のお役にたつような、笑顔になるような活動をコツコツと積み重ねておられるのを拝見し、感動したり、羨ましく感じたりしました。

2年生になり、卒業後の活動について深く考えるうちに、卒業発表の

準備を通じて志を近く持つ仲間が出来ました。そして卒業後も地域活動について考え、実践できる場として「手づくりサークル:ポケット」を立ち上げることが出来ました。

私自身が「身近な人達の役に立てる活動ができないだろうか」と考えるまでに至ったことは、大学に入ってから出会えた先生方やクラスメイトはもちろん、事務局の皆様、卒業後もご活躍の先輩、後輩の皆様、授業に携わってくださった地域の皆様方のお陰だと、つくづく思います。

まだまだ未熟者ですので、これからも色々な方々にご指導いただきながら、そして大学での素晴らしい

出会いの数々を大切に、地域での活動を続けていきたいと思えます。



(最後の授業で撮った集合写真)

(まち5期:高島)



子ども支援学科 ~感謝! 感謝!!~

2年間の学びの総決算ともいえる、卒業論文。

卒業が近づくと、グループ研究等も増え、自分自身のボランティアもあり、授業に出席するのも大変です。

その上「卒業論文〜?」。書き出すまでに、心の整理がなかなか付かない子ども支援学科5期生。「どうしても書かなければいけないんですか?」と思いながらも、中間発表や意見交換の中で、学生同士が気持ちをほぐし、整理していったように思います。

書き上がってみれば、2年間の「振り返り」ができ、まとめて良かったと言う思いと、先生方、事務局のみな

さん、そして大事な5期の仲間への感謝があふれる論文になりました。内緒ですが、図書館にも置いてあるらしいですよ。



(クラスみんなで実施したイベントの様子)

(子ども5期:熊倉・小杉)

国際コミュニティ学科 ~「江戸川総合人生大学」で学んで~

2008年10月に入学してから、瞬く間に2年が経ち、9月には多田区長、北野学長他先生、職員、OBの方々に参加して厳粛な中にも和気あふれる卒業式が行われ、46年ぶりに卒業証書を受領しました。

一年次は選択科目もあり、新しい環境、知識、友達に慣れるだけで結構忙しかったのですが、グループ活動を通じてクラスの人はずっと覚えられ、また、選択科目では他学科の人とも親しくなれるのが楽しかったです。

二年生になると社会活動体験の実習で、ボランティア活動の現場に出かけました。私の場合、①日本語教室、②音訳グループ、③録音図書製作

に参加し、現在も継続しています。また、これらの活動のための講習を受けたり、区の福祉ボランティア協議会の運営会議に出たりして、地域の多くの人と知り合うことができました。



(フィールドワーク先の区役所にて)

今年の7月には、区の「都市計画審議委員」に採用されました。資料を通じて区の基本的な構想が読み取り、今後区民代表として再開発や街づくりの案件審議に参加し、何らかのお役に立てればと思っています。

どのボランティアグループに入っても、70代の方が元気で頑張っており(中には80代の方も活躍されている)元気な高齢社会を実感しています。小生など、まだまだ鼻たれ小僧扱いですが、それが結構楽しく、人生大学に入って順調に会社人間から地元人間へのソフトランディングができたと思っています。

(国際5期:松村)



介護・福祉学科 ~2年間の学びを通して~

私は人の為、自分の為に役立つのではないかと介護・福祉学科に入学を決めました。

〔一年目の授業〕:村田幸子学科長の広範囲な知識と経験豊富な講義を受け、資料とアドバイスをたくさん頂きました。施設経営者の方の講義や活動内容の写真などを拝見して、介護福祉の基礎や地域との関連、高齢社会とどう向き合うかを分かり易く説明して下さいましたので、初心者の私達にも理解でき、介護関連をより深く考える機会になりました。

私達は、栃木県佐野の「風の詩」サービス施設を訪問しました。説明を受け、利用者さんと一緒に参加させて頂きました。また、私たちもどこから来たかのお話をしたり、昔の歌を仲間の一人がハーモニカを吹き楽しく歌いました。一日の予定の中に、一人一人のことを考えたきめ細やかな思いやりを活動内容に組み込み、楽しく過ごせる

ように工夫をしていました。

〔二年目の授業〕:社会活動体験40時間のボランティアでは、①認知症対応グループホーム ②「江東園」③「きく」④区立小学校のすすくスクールなど、それぞれ自分で施設を探し活動内容も考え行ってきました。実施をしてみて、一人一人が介護の重要性、人の手がたくさん要ることを感じ取り、できる限りボランティアを続けたいとの思いを持ちました。

〔卒業発表〕:矢郷先生からの指導を仰ぎ、発表内容を考え、題名についてグループで相談をし、何について誰が調べるか、一人一人の調査研究とグループ内容とのつながりを詳しく調べました。

図書館、施設、区役所、インターネットなど、あらゆる手段を使って調べ、なるべく詳しくわかり易い発表になるように努力しま

した。学生証を見せて、それぞれの所に入りましたので、取材がスムーズにでき、貴重な経験をしました。

卒業後も交流や地域活動が出来た友を得た事は、人生においてとても素晴らしい事だと思えます。



(大学祭で授業の成果を発表)

(介護5期:芦田)

ボランティアセンターより

ちょいボラしてみませんか?

「ボランティア」は時間に余裕がある人の特別なモノ!って思っていないですか?実はボランティアは、気軽に身近なものなんです。

例えば……道に落ちているゴミを拾ってゴミ箱に入れる、とか。

車イスの人のために道をあける、

近所の公園で草花の手入れをする、などなど。

あなたも、自分にできること、関心のあることから始めてみませんか?

ボランティアセンターでは、いろいろな活動をご紹介します。ぜひ、おいでください。

【お問い合わせ】

江戸川区ボランティアセンター

場所:江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス1階 電話:5662-7671 FAX:3653-0740

開館:月~土 8:30~17:15 休館:日・祝日・12/29~1/3

ホームページ検索:「ボランティアセンター 江戸川区ホームページ」

Eメール:edo-vc@city.edogawa.tokyo.jp



えどがわエコセンターより

「もったいない運動えどがわ」取り組みレポートをエコセンターに送らしましょう!

地球温暖化防止になる取り組みを登録するのが「もったいない運動えどがわ」です。

えどがわエコセンターでは、日本一のエコタウンを目指し「もったいない運動えどがわ」をすすめています。多くの方が登録をすることで、いろんなアイデアや工夫を共有することができます。

登録をしていない方は、登録しましょう。また、日頃、「もったいない」の心で生活している方に登録をお勧めしましょう。

登録をした方は「取り組みレポート」をエコセンターに提出しましょう。【締切11月20日(土)】みんなに紹介したい取り組みを「もったいない運動えどがわ区民大会」で表彰します。

「取り組みレポート」は、駅の広報スタンド、各公共施設等で配布しています。

☆第5回 もったいない運動えどがわ区民大会☆

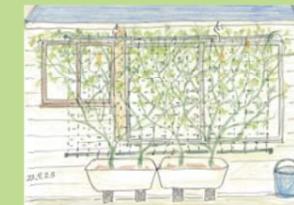
主催:江戸川区・えどがわエコセンター 開催日:平成23年3月5日(土)

会場:タワーホール船堀 問合せ:えどがわエコセンター 電話:03-5659-1651



街じゅうに、すてきなゴーヤのカーテン!

えどがわエコセンターで、みどりのカーテンに取り組みモニターを募集したところ、300組の応募があり、街じゅうにゴーヤの花が咲きました。モニターの一人、大友喜美子さん(松島在住)はレポートにすてきなイラストを添えてくれました。



来年、あなたもチャレンジしてみませんか?

江戸川区を知る<第1弾>

住んでいると意外と知らない自分たちのまち。新シリーズ「江戸川区を知る」第1弾として、江戸川区学芸員の樋口氏に3回連続で執筆していただきます。

愛しきわがまちの軌跡③

金魚・レンコン・花のまち 樋口政則

昭和34年9月、伊勢湾台風が愛知県を襲いました。このとき金魚養殖で知られた愛知県弥富町では、海水の流入で金魚も壊滅寸前となりました。この弥富の金魚復興に尽力したのが東京の養殖組合でした。大量の親疏金を提供しています。

江戸川区の金魚養殖は明治30年代に始まりました。大正12年の震災以降、都心部の生産業者が卸売に転換したため、生産の主力が江東・江戸川に移りました。戦後は金魚養殖が江戸川区に集中し、昭和24年に東京都淡水魚養殖漁業協同組合を設立、船堀の現在地に本拠をおきました。江戸川区は、奈良県の大和郡山、愛知県の弥富とならんで、日本三大産地のひとつとなりました。しかし、都市化による養殖池の減少により昭和50年代に、生産者が激減し、現在堀口養魚場・橋川養魚場の2軒が伝統を守っています。

江戸川区で金魚養殖がさかんになったのは、沖積低地特有の深田が養殖池に転用されたからです。これはレンコン（蓮根）栽培にも適していたことから、大正時

代に転換する農家がふえ、区の特産品となりました。

江戸川区で最初にレンコンを栽培したのは明治20年代の宇喜田と松江でした。もとは日本蓮でしたが、肥料過多による腐敗病がひろまり、抵抗力のある中国原産の品種にかわっていきました。レンコンの収穫は暮れから正月にかけての寒い時期です。深い泥のなかにあるレンコンを掘り出します。水中に手を入れての作業のため、てっぽうと呼ばれる小さな風呂のような桶に湯を沸かし、これにときどき手をひたしてあたためながら掘りました。やはり都市化による蓮田の減少で生産者が減り、昭和末年には生産農家が姿を消しました。

江戸時代から現在まで続いている作物もあります。そのひとつが花です。江戸時代に大杉あたりではじまった菊作りが、周りに広がっていき、明治には瑞江・鹿本方面でも花卉栽培に従事する農家が増えました。品種も菊だけでなく、牡丹・芍薬、さらには各種の切り花が加わりました。戦争中、一時食糧生産のために衰微しましたが、戦後復活して、昭和30年代に大きく生産を増やし、区の特産品に



(レンコン掘り)

数えられるようになりました。石田波郷は『江東歳時記』（昭和41年）で、「鹿骨はごぞんじ花作りの村。畑に温床に一年中花の絶え間がないが、年の暮もようやく近いこのごろ、榛の畔木の林立する間に、美しく畑をいろどっているのは葉牡丹だ。」と書き、「葉牡丹に榛の冬の燻ゆるかな」の句を詠んでいます。朝顔やほうずきといった季節の行事に欠かせない鉢物の出荷も古くから受け継がれています。『東京都農作物生産状況調査結果報告書』（平成19年産）では、農地の11%にあたる約8haで、種類も生産量も多く、花のまち江戸川区の伝統を誇っています。

（「愛しきわがまちの軌跡」は今回で終了します）

同窓会の窓

9月7日(火)、5期生の卒業式に同窓生13名が参加してきました。新たに巣立った77名の卒業生の皆さんは、はじけるような笑顔で一人ひとり、学長から卒業証書を受け取っておられました。北野学長は学びの大切さについて熱く語られ、また多田区長からは卒業後の継続した活躍に大いに期待しているとの励ましのお言葉をいただきました。

わずか2年間と言う短い期間ですが、卒業生が抱負の中で「友達に支えられ、学んだ素晴らしさ」に触れられ、今後もいろいろなことに挑戦して行きたいとの力強いお気持ちを感じました。こころからお祝いを申し上げます。

さて、同窓会として今期はボランティアフェスティバル、大学祭、オープンキャンパスへの参加や『人生大学をもっと知ろう』というイベントを開催するなど、人生大学の発展に寄与するため積極的に取り組んできました。

同窓会も5期生を迎え、10月12日(火)には第4回総会ならびに懇親会を開催致しました。人生大学関係者の方に大勢ご列席をいただき無事に会を終了することができました。意願である同窓会主催あるいは人生大学との共催の講演会などについても有意義な議論を交わしました。広く江戸川区民の皆さんに人生大学の素晴らしさを知っていただきたいと願っております。

活力ある江戸川総合人生大学同窓会をめざし、全員で努力してまいります。

はじけるような笑顔で一人ひとり、学長



大学祭にお越しいただきありがとうございました！

第5回江戸川総合人生大学祭～学び ふれあい ゆたかな心～を7月31日(土) タワーホール船堀にて開催し、暑い中約1,600人の区民の皆様方にご来場いただきました。

手づくりの体験コーナー・展示コーナー・よってこスタジオでは、一年間の学び、体験、研究の成果を発表しました。また、同窓会によるグループ活動紹介や喫茶コーナーも出展しました。さらに、ステージでは、多田区長のご挨拶、北野学長の講演、各学科長へのインタビュー等が行われ、大盛況の中、幕を下ろしました。

この日のために私達は、一生懸命準備を重ねてきましたので、在校生、卒業生の楽しそうな顔がとても印象的でした。区民の皆様方の温かいご協力、誠にありがとうございました。

(まち6期 川名・小林)



編集後記

「ひと あい えどがわ」は、江戸川総合人生大学が発行する情報紙ですが、その編集は大学に通う学生の手により発行されています。今まで編集などやったことがない人ばかりですが、各学科1年生・2年生の編集委員が、知恵を絞っています。記事を書き、レイアウトを考え、学ぶ楽しさを伝えようがんばっています。読者の皆さんにこの思い、届きましたでしょうか?ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

副編集長 小杉裕子

「ひと あい えどがわ」編集委員

[5期生] 金子律子、坂井敏子(まち) 杉山力、細谷久子(国) 熊倉広美、小杉裕子(子) 木元和子、宮道益江(介)

[6期生] 川名信義、小林隆子(まち) 田代耕太郎、田中サチ子(国) 小谷勝彦(子) 伊久美明、水野フジ子(介)